

# 公共図書館における地域資料の収集・提供 ならびにデータベース化 —岡山県下の公共図書館を対象とした調査研究—

中西 裕  
加藤美奈子  
(就実短期大学)

キーワード：地域資料、郷土資料、データベース、デジタルアーカイブ、  
図書館司書課程、授業実践報告、公共図書館

## 1. はじめに

「地域資料」「郷土資料」の収集と提供は公共図書館の重要な役割である。「図書館法」第3条には図書館の奉仕活動が次のように規定されている。

第三条 図書館は、図書館奉仕のため、土地の事情及び一般公衆の希望に沿い、更に学校教育を援助し、及び家庭教育の向上に資することとなるように留意し、おおむね次に掲げる事項の実施に努めなければならない。

一 郷土資料、地方行政資料、美術品、レコード及びフィルムの収集にも十分留意して、図書、記録、視聴覚教育の資料その他必要な資料（電磁的記録（電子的方式、磁気的方式その他人の知覚によつては認識することができない方式で作られた記録をいう。）を含む。以下「図書館資料」という。）を収集し、一般公衆の利用に供すること。

(以下略)

公共図書館はその存立する地域に関する資料を収集して利用に供することに留意しなければならないことが法的に規定されている。また、実際に公共図書館において長年に亘って郷土資料を担当していた吉良(2009)は、公共図書館が郷土資料を収集する重要性として、郷土資料が「その地域でしか集められない資料である」点、「未来の利用者のために、今収集しなければならない資料である」点、「その地域の住民がその地域の事を知り、その地域の自治に参加するのに必要な資料である」点、「その地域の歴史的事実を証明する資料である」点の4点を挙げている。公共図書館における地域資料収集の重要性は図書館現場においても意識されてきたことがわかる。

そこで本稿では、岡山県内の公共図書館の地域資料に関して、2章では文学研究の立場から、3章では就実大学・就実短期大学の図書館司書課程科目「図書館基礎特論」における地域資料調査の実践報告を通して、4章では地域資料のデジタル化とデジタルアーカイブの公開の形態に関するインターネット調査と分析によって、地域資料に関する公共図書館の現状と課題について考察する。

ところで、ここで整理しておかねばならないのは用語の問題である。上記法律には「郷土資料」という文言が使われているが、現在では「地域資料」という用語の使用が広がっている。たとえば『図書館ハンドブック』(2016年第6版補訂2版)には「郷土資料」の項目はなく「地域資料」の項に、「図書館法では、『郷土資料』『地方行政資料』とされているものを、地域資料としてあつかう」と記されている。さらに同書では、図書館法成立当時散逸の恐れがあった近世史料などの郷土史研究の資料を「郷土資料」と呼んだこと、その後1960年代後半に「地域資料」という呼称で、地域の行政サービスを知るための資料、住民運動や労働組合運動の発行物などにも収集の範囲が広がったことが述べられ、地域資料は「どのような範囲で選択・収集し、住民の情報要求に対応できるようにするかが図書館に問われる、重要な資料となっている。」<sup>(註1)</sup>と、地域

資料に関する図書館の見識の重要性が強調されている。

竹田（2015）は、研究文献レビューの中で1999年の図書館員選書『地域資料入門』以降「地域資料サービス」という用語が定着化してきたと指摘している。当該文献では地域資料について根本彰による次のような定義が記されている。

本書では、地域資料を、当該地域を総合的かつ相対的に把握するための資料群と捉え、発行者として行政体と民間（出版社や団体、個人）を問わず、また主題として歴史、行財政、文学その他を問わず、地域で発生するすべての資料および地域に関するすべての資料と定義することにします。<sup>(注2)</sup>

現在、公共図書館において「郷土資料」「地域資料」いずれもの呼称が使用されており、時には「地域資料」の親しみやすい言い換え語として「郷土資料」が使われているようなケースもあるが、本稿においては上の根本による定義をもって、「郷土資料」より広い概念の用語として「地域資料」の呼称を基本的に使用することにする。

## 2. 研究利用における公共図書館の地域資料

本章の稿者は、倉敷市連島出身の詩人・薄田泣菫関連資料<sup>(注3)</sup> および、昭和期における与謝野寛・晶子の岡山来訪に関連する地域資料を調査・利用してきた。研究上、公共図書館の所蔵する「地域資料」が重要、不可欠のものであることを実感している。一例として、岡山県立図書館の「郷土資料」として収蔵されている「地方紙」「地方文芸誌」「校誌」が挙げられる。

「山陽新聞」（前身の「山陽新報」は、明治期創刊）は、岡山県地域を代表する「地方紙」の一つである。昭和4年秋に与謝野寛・晶子は高梁地域を来訪しているが、晶子自身による紀行文には、「高梁川の上流諸

村に互る溪谷の景勝を、丁度紅葉の季節に観て来た」(与謝野晶子「北備溪谷の秋」、『街頭に送る』昭和6年所収)と回想され、日程までは特定されていなかった。が、実際の旅程、未発表の旅詠が「山陽新報」(昭和4年11月2日付「鬼ヶ嶽へ遊ぶ」)により詳らかになった。また、二人を招いた芳賀直次郎の生前のインタビュー記事を「地方文芸誌」である『備北文学』19号(昭和52年12月)が載せている。<sup>(注4)</sup> 昭和8年夏にも寛・晶子は正宗敦夫の招きにより来岡し、備前・美作地域を訪れている。岡山県立津山高等学校の前身は津山高等女学校であり、同校の90周年を記念する「校誌」には来校した二人の揮毫と歌の翻刻が掲載されており、晶子の数首が未公表の詠草であることを確認し得た。<sup>(注5)</sup> いずれも、文学者の側が公表する「中央」の資料を補完する重要な役割を「地域資料」が果たしている。以下、公共図書館所蔵の地域資料の利用者として、また、後述の図書館司書資格課程の教科担当者として、直近で来訪機会のあった公立図書館の「地域資料」についての所感を略述する。

## 2-1 岡山県立図書館

上述の研究資料は主として同館の「郷土資料」によっている。2階に「郷土資料部門」があり、「郷土カウンター」を設けている(同館案内図「最終更新 2022.4.1」)。郷土資料内でNDCの配列により、「郷土雑誌」「市町村広報誌」「新聞切抜」の書棚がある。「岡山県記録資料館」(岡山市北区南方)との連携が示されているが、「岡山県記録資料館」は同館利用案内によると、「岡山県の記録を伝える貴重な公文書・古文書その他の資料(記録資料=アーカイブズ)を収集・保存し、その利用を図ることを目的とした施設として平成17年(2005)に開館」した。「複製資料」として、「昭和20年代までの新聞等を撮影」し、マイクロフィルム等で収集している。「閲覧しやすいように紙焼きしたもの」もあり、上述の「山陽新報」はこの複製資料を閲覧・調査した。

また、「校誌」についても、「岡山県立記録資料館連携展示」として、『岡



山の高等学校・特別支援学校等の魅力』に関する資料リスト 郷土展示 2022.9.23～2022.11.22 岡山県立図書館 郷土資料班が展示資料として館内配布され、県内の学校教育関連資料を「郷土資料」として重視する姿勢が示されている。他に、同館「郷土部門」作成の館内配布資料として、300冊以上にのぼる『岡山文庫』刊行リスト』『岡山文庫』刊行リスト 分類別（岡山県立図書館郷土資料班作成、2021.3現在）の二種類が示され、同文庫が「刊行リスト」順に配架されている。また、郷土カウンターでは、「郷土資料班」作成のパスファインダーとして「岡山県立図書館 郷土情報調べ案内」を配布している。「No.1 『刀剣王国おかやま』を知る 修正：2022/1/8」「No.4 改訂2版 『認知症』を知る 2021/11/1」を入手し得たが、他のパスファインダーのテーマ・所在は確認できなかった。現在の県立図書館の前身である「岡山県総合文化センター 郷土資料室」（岡山市天神町）時代からの広報誌「真金倶楽部（まかねくらぶ）」（No.1 2002.5）は、「質問を通して垣間見る岡山の姿」、郷土カウンターでのレファレンス事例を紹介する内容になっている。

「郷土資料班」による展示リストとして、『生誕150年 平櫛田中と井原』展示資料リスト（2022.2.19～4.24）他、『瀬戸内国際芸術祭2022と岡山のアートシーン』に関する資料リスト（2022.6.30～9.19）、「あっぱれ岡山人『清水紫琴』」（2022.6.30～7.31）、今年度同シリーズとして『清水比庵』・『薄田泣菫』の資料リストを配布、『住宅顕信』の展示を予告している。「郷土展示」を終えた後も、こうした資料リストは、同館「地域資料」のパスファインダーとして有意義である。が、これらの資料リストは、郷土資料部門のフロアではなく、エントランス出口付近にあり、その機能を十分に果たし得ているとは言いがたく、同館サイトにもデジタル掲載はされていない実状が惜しまれる。

県立図書館の「イベント」の特色としては、私学を含む県内の中学・高等学校の生徒による企画展示が挙げられる。2022年10月の「イベント

カレンダー」には、上述の「あっ晴れ岡山人」郷土展示の他、「デニム王国おかやま」「岡山芸術交流2022」といった地域色のある展示・企画、「県循環型社会推進課」による「エコライフ」に関する共同企画も見受けられた。

## 2-2 里庄町立図書館

「里庄町」は、「岡山県南西部、浅口（あさくち）郡にある町。1905年（明治38）里見村と新庄村が合併して里庄村となり、1950年（昭和25）町制施行。（中略）岡山、倉敷両市のベッドタウン化が進んでいる」地域であり、「物理学者仁科芳雄（にしなよしお）の生家があり、一般に公開されている」。<sup>(注6)</sup> いわゆる「平成の大合併」による町村合併によらず、現在「人口が減少している自治体が多い中、里庄町は、ここ20年間10,000人の人口をキープ」しており、「里庄町出身のミュージシャン藤井風さん情報」のバナーが同町サイトトップページにある。<sup>(注7)</sup>

町立図書館は1階のみのフロアで小規模ながら、「郷土資料」は「参考資料」とともに、「児童書」奥の、ガラスの壁面・ドアで仕切られた空間に置かれている。「地域資料」による仁科芳雄顕彰を予想して来館したが、総合カウンター付近と「郷土資料」スペースで関連書籍が展示され印象的だったのは、「里庄村」出身の植物学者「佐藤清明（きよあき）」（1905～1998）である。平成30年発行の簡易なリーフレット（編集：里庄町立図書館、発行：里庄町教育委員会）は、「佐藤清明資料保存会事務局：里庄町立図書館」とあり、「いっしょに活動してみませんか」と呼びかけている。この顕彰は、同町教育委員会・資料保存会が連携し、町立図書館が拠点となっている。同リーフレットで紹介されている「里庄の偉人 佐藤清明 顕彰特設サイト」も、「里庄町立図書館」サイト内に設置されている。「顕彰特設サイト」では、清明を「里庄のせいめいさん」として紹介し、配布リーフレット紙面もPDFファイルで掲載されている。<sup>(注8)</sup>

清明による「日本で始めての妖怪事典である」『現行全国妖怪辞典』（方言叢書第七篇 中国民俗学会、1935年）の同館所蔵の原資料は、倉敷市立自然史博物館・里庄町立図書館主催、倉敷市立自然史博物館友の会・佐藤清明資料保存会共催による「第31回特別展 倉敷動物妖怪展at自然史博物館」（2022.7.16～9.25）に展示されているため、全文を複写資料で閲覧出来るファイルが展示されていた。また、「郷土資料」の開架書架は、小規模ではあるが、仁科芳雄関連の書籍が一部禁帯出で配架されている。佐藤清明資料保存会『岡山県下のキクザクラについて』（2020年）は、「清明を読む会」資料をプリントアウトした手作りの冊子で、ファイリングし展示されている。近隣の浅口市鴨方町原田文学館による『佐藤清明 企画展図録』（2021.2.24～8.25、後援／里庄町、里庄町教育委員会、協力／佐藤清明資料保存会）も展示され、町立図書館が保存会の活動拠点であると同時に近隣地域・文化施設とも連携され、細やかな顕彰・社会教育活動・地域資料の収集が実践されていることが伝わる。

「里庄町立図書館ニュース」は毎月刊行、令和4年10月で第353号を数え、表紙は町内の小中学生による絵画で、中とじA4版 全15ページの冊子である。イベントとして、「第2回 清明を読む会」、「菊桜写真展」、「特別展 動物妖怪展at里庄町立図書館」など、佐藤清明顕彰の企画が実施されている。また、視聴覚室を会場として、里庄町文化協会・郷土史部による「第112回 里庄歴史勉強会」のチラシが図書館入り口に掲示されていた。「館内案内図」等を載せる館内配布パンフレット「ようこそ！ 図書館へ！」（里庄町立図書館）には、「高梁川流域連盟図書館相互利用カードのつかいかた」の説明があり、「新見市、高梁市、総社市、早島町、倉敷市、矢掛町、井原市、笠岡市に在住の方が対象」とされている。

### 2-3 高梁市図書館

概要が、「高梁市公式ホームページ」で以下のように説明されている。<sup>(注9)</sup>

高梁市の新しい市立図書館は2017年2月にオープンしました。備中高梁駅から直接2階にアクセスできます。左手に高梁観光案内所があり、高梁市の観光スポットに関する情報やパンフレットがもらえます。お土産や高梁の特産物も販売されています。図書館の2階に蔦屋書店とスターバックスコーヒーも設置されています。

TSUTAYAを運営するカルチュア・コンビニエンス・クラブが公立図書館の運営を担う4例目である。川瀬・北(2018)は、「OPACに山積していた諸問題が、高梁市立図書館では改善されたのか」(p.29)を検証している。「ツタヤ図書館」は、「NDCとは異なる特異な項目区分が採用されている」(p.34)。「地域資料」はどのように扱われているだろうか。

高梁市図書館では、大ジャンル「歴史・郷土」の下位区分として中ジャンルに「地方史」、「高梁市」、「岡山県」が追加された。なお、検索結果から類推すると、中ジャンルの「地方史」には、備前、備中地方の歴史関係の図書が分類されているようである。(略)大ジャンル「歴史・郷土」の下位区分では、郷土資料への展開が手厚い。(p.35)

同論においては、「歴史的な郷土資料は重視するが、現在の行政情報の提供には消極的と推察するのは穿ちすぎであろうか」と総括している。

だが、実際に来館し、当該の書棚を閲覧したが、「歴史的な郷土資料」も特に重視しているわけではない、という印象を受けた。

確かに、「図書館マップ」の「歴史/郷土 人文」のスペースには、「郷土 LOCAL HISTORY」として比較的多くの資料が配架されている。「高梁を知る」というキャプションのもと、実物の備中神楽面や、備中松山城、吹屋のパネルが展示され、関連書籍が並べられている。「高梁ゆか

りの人物」として、山田方谷関連の書籍がまとめられているが、NDCによらないため関連テーマの書籍が隣接せず、雑然とした印象を受ける。例えば、「新島襄」は「歴史郷土206ニ」と請求記号の位置に示されているが、対象となる人物の五〇音順であるため、「石川達三」「小堀遠州」「綱島梁川」「新島襄」といった具合に時代や分野が交錯した配列になる。同館は年中無休で館内整理日が設けられないためかとも思われるが、その五〇音配列が崩れている部分も見受けられた。また、高所の書棚に陳列された書籍は、「ディスプレイ」としてのインパクトはあるものの、地震などの災害時の危険性や光劣化等も考えられ、資料保存の面からも懸念を感じさせる。

地域資料として、高梁市の郷土史家として知られる芳賀直次郎に関連する資料を閲覧した。芳賀直次郎はロシア文学者・米川正夫（1891～1965）の旧制高梁中学校（現・岡山県立高梁高等学校）の同級生であり、昭和4年に与謝野寛・晶子を高梁に招いた人物である。

閲覧した芳賀直次郎『大高檀紙』は、本文手書き印刷、片面一枚ものの資料に厚紙の表紙が付されている。同資料にある「柳井家」は稿者の母方のルーツに関わるのであるが、「近くは徳富蘇峰や与謝野晶子夫婦が来遊した折」と興味深い言及がされている。この資料は開架に配せられており、禁帯出ではない。この一枚ものの資料の形態と希少性を鑑みれば、「貸し出す」意義よりも、保存・デジタル公開する意義を優先すべきだろう。同じく芳賀直次郎による『方谷山田先生遺墨集』（1928年）は、帙入り和書の装丁で、「贈高梁小学校 芳賀直次郎」と見返しに墨書され、「賜天覧」「高梁尋常高等小学校」の朱印が捺印されている。同書は、「閉架書庫」収蔵ではあるものの、禁帯出資料にはなっていない。また、前述の地方文芸誌『備北文学』は、雑誌ではなく書籍として登録されており、同館OPACでも「雑誌」を指定して検索するとヒットしない状態になっている。同館には、2021年11月に刊行されている最新号である第80号が2022年10月12日現在、登録されておらず、地域資料の内の

逐次刊行物の管理ならびに収集に疑問が残る状態であった。

前述の佐藤清明関連の資料のように、地域資料は必ずしもISBN、ISSNを付されて流通するものではない。そのため、地域の文化施設・顕彰活動との連携が、失われやすい地域資料を図書館資料として保存し、継承することに繋がる。同館の地域の歴史・文化を伝える希少性のある資料は、「高梁市立中央図書館」時代の収蔵によるものが中心であり、継承した同館には、それらの地域資料の水準を今後、維持・発展させる責務があるのではないか。

市民へのサービスや地域の活性化の拠点という意味では同館の在り方を歓迎する向きも多いが、こと地域資料の収集・保持、提供という側面から考えると、近隣の地域、文化施設、教育・顕彰活動などと連携した社会教育活動の拠点となるような企画の実施や情報発信の充実が求められる。里庄町立図書館においては、「高梁川流域連盟図書館相互利用カード」が紹介されていたが、「高梁市図書館 利用案内」にはその旨の記載はなく、「Tカードが必要です」と説明されているのみである。同館のホームページには、「7.高梁川流域サービス」<sup>(注10)</sup>として紹介されているものの、地域連携への積極性はさほど示されていないと感じざるを得ない。

## 2-4 有漢図書室

高梁市図書館の利用案内には、「公民館図書室のご案内」として、成羽図書室・有漢図書室・川上図書室・備中図書室を挙げている。いずれも、「2004年（平成16）高梁市、成羽（なりわ）町、川上（かわかみ）町、備中（びっちゅう）町と合併、高梁市とな」った地域である。<sup>(注11)</sup> すなわち、「平成の大合併」により、町立図書館が「図書室」とされ、現在各図書室には独自のOPACはなく、「高梁市立図書館」サイト内の「資料をさがす」ページ（[https://takahashi.city-library.jp/library/ja/library\\_search/conditions](https://takahashi.city-library.jp/library/ja/library_search/conditions)）で各室の所蔵を検索するシステムとなっている。検

索結果は、書誌情報のみで、配架情報、NDC・請求記号等は示されない。これら図書室も高梁市図書館に準じた独自のジャンル区分なのかを確認するため、有漢図書室を訪れた。

有漢図書室は、生涯学習センター内にあり、入り口の前には綱島梁川(1873～1907)の碑が二基ある。図書室は小規模だが、整然として配架は従来のNDCにより、月曜の休館日を設けている。展示はわずかであるが、一角に綱島梁川関連の書籍と、蛭田禎男「有漢点描」というシリーズの郷土資料、有漢西小学校の校誌を並べている。同じコーナーに、綱島梁川顕彰会・有漢町教育委員会による「郷土の偉人 綱島梁川」という配布用のパンフレットが置かれている。「方谷研究会」による「『山田方谷』読書案内」(2021.3)というカラー印刷物もここで入手した。「郷土資料」の棚が設けられ、近隣市町村の郷土史などの他、町史編纂に用いられたというファイリングされた『有漢町史・写真集』第1～6集が配架されている。児童書コーナーにわずかながら漫画の所蔵があり、「吉備川上ふれあい漫画美術館」を紹介するパネル展示がされている。市内での連携の期待できる「図書室」であるが、「高梁市図書館」との関係性は少なくとも閲覧室からは見出せなかった。県立図書館が県内の公共図書館をサポートするように、市立などの「中央館」は、「分館」「分室」と連携・相補し、また支援する役割を担う。高梁市図書館と各図書室は、共通の「書誌検索」で「横断検索」するものの、所蔵館の表示がなく、配架情報も請求記号もない。このようなシステムによって、地域資料を介しての図書館と各図書室との相互の連携・相互貸借・情報共有、地域性のある企画・社会教育活動の充実を図り得るであろうか。

### 3. 司書資格課程「図書館基礎特論」公共図書館・地域資料調査課題 実践報告

稿者は、「改正司書養成科目」の平成24年4月「新カリキュラム実施」に伴い、平成24年度前期より「図書館基礎特論」(選択科目、1単位)

を担当している。同科目は、本学では四年制大学の人文科学部・教育学部、および稿者の所属する短期大学 生活実践科学科の司書資格課程の2年次生以上を対象として、開講している。この課程においては、「選択科目（乙群）」開講の5科目中2科目2単位を取得すればよく、内3教科が一年次後期から履修可能なため、この教科の受講生は例年10名程度である。「図書館基礎特論」は、以下が教科の「ねらい」とされている。

(注12)

必修の各科目で学んだ内容を発展的に学修し、理解を深める観点から、基礎科目に関する領域の課題を選択し、講義や演習を行う。

必修科目で学ぶ「図書館情報資源」の一つである公共図書館を特色づける「地域資料」と、それを生かした「社会教育活動」、「レファレンス・サービス」の提供を意識し、公共図書館の調査をまじえた実践を考え、近年は前期前半の授業（前期前半、試験を含む8回）を概ね以下のような内容で実践している。(注13)

授業の概要：受講者が選択した公共図書館について調査・レポートで報告し、複数館での「郷土資料」「社会教育活動」について相互に学びます。それらをふまえ、公共図書館における社会教育活動の具体的な計画をグループワークで提案し、利用者・司書としての双方の視点から検討を加えます。

各地域で顕彰されている人物・産業等について、公共図書館の「地域資料」を利用して調査・報告することを実践させている。その際に、地域資料の特色、施設の概要を確認し、実際にレファレンスを受けてみることを勧めている。それらを総合し、学生自身が調査対象の館の司書であると想定した場合に実施してみたい、地域性のある・地域資料を活用



したイベントの企画書を作成することを記述試験の一部として課している。2020～2021年度前期においては、全回オンライン授業となり、公共図書館と「地域資料」をテーマとしつつも、インターネットによる調査・パスファインダーの作成により現地調査に代替した。

ここでは、学生の調査報告レポートのいくつかを例に挙げて分析対象とし、学生の視点による、各館の地域資料の収集・提供の様態について考察する。なお、例示に当たり当該学生の許諾を得ている。学生の作成したレポートに添付・提出された各館資料、口頭発表により補足を加えた。

### 3-1 瀬戸内市民図書館（もみわ広場）—竹田喜之助（2022年度 短期大学 生活実践科学科 2年生）

A 2版カラー両面印刷の同館パンフレットによると、愛称「もみわ広場」は、『『もちより・みつけ・わけあう』市民の市民による市民のための広場』というコンセプトにより命名されている。同資料の『『瀬戸内市民図書館 もみわ広場』が出来るまで』によると、「2010 12 新図書館の計画段階から市民参画など求める『市の公共図書館についての陳情』を市議が採択し、実際に「2011 11 図書館づくり市民ワークショップ『としょかん未来ミーティング』」が開催され、2016年6月に開館している。「瀬戸内市出身の糸操り人形師・竹田喜之助を顕彰するギャラリーや、門田貝塚など、郷土資料展示も行う『せとうち発見の道』も含んだ多機能型図書館」という。館内図は、従来のNDCによる配架案内ではなく、1階に「くらし／趣味／文学／新聞」とあり、2階に「各種実用書／専門書／地域資料」と示されている。館内図で「郷土資料」ではなく、「地域資料」と明確に示しているのを目にしたのは、稿者自身はこの館が初めてである。別紙A 3両面カラーの「りようあんない」の館内図は、棚番号ごとに「参考図書／パソコン」のような分類を示している。

調査した学生は、この館の近隣（瀬戸内市邑久町）住民であり、「竹

田喜之助」と同地出身の「竹久夢二」の名には幼い頃から親しんでいるという。学生が収集してきた館内配布の地域資料に以下の、「パスファインダー」があった。

レポートに添付・提出された「郷土資料 パスファインダー①ハンセン病 令和3年3月発行」によると、資料リストには、「請求記号」と棚番号が示されている。「棚62 瀬戸内市の資料にハンセン病の郷土資料があります」と説明されている。6ページにわたる資料には、「ハンセン病を知る」「ハンセン病の歴史と記録」「長島愛生園」といった内容による独自の資料分類を示し、書籍資料だけでなく、「長島の療養所と関係団体のサイト」「日本のハンセン病に関するサイト」も示されている。同様に、「②朝鮮通信使」「③竹久夢二」の各パスファインダーがある。

「2022 5月 もみわレター 瀬戸内市図書館だより VOL.74」には、瀬戸内市民図書館と瀬戸内市牛窓図書館、瀬戸内市長船図書館が併記されている。企画として、「令和4年度瀬戸内市協同提案事業 テーマ『デジタルアーカイブを核とした地域資源の情報発信』主催 瀬戸内市立図書館友の会 せとうち・もみわフレンズ」とあり、講演会として藤井英幸さん（西大寺愛郷会）による「伊能忠敬が測量で歩いた！ 瀬戸内市の尻海、虫明、牛窓」が同館で実施されている。他にも、「喜之助シアター」では、「瀬戸内市アマチュア人形劇団協議会 第55回定期公演」が実施され、図書館を拠点とした竹田喜之助顕彰の一環となっている。一方で、竹田喜之助に関連する所蔵資料そのものは、竹田喜之助顕彰会による『喜之助人形』（1998年）の他、端的に全貌を伝える資料は少なく、調査が難しいという感想を学生はもったようである。邑久町による「喜之助フェスティバル」を紹介する岡本包治『現代生涯学習全集7』（ぎょうせい、1992年）は、顕彰活動について伝えるものの、30年前の資料である。「竹田喜之助ギャラリー」に展示されている禁帯出資料も少ない印象であったことを調査した学生は報告している。

### 3-2 玉野市立図書館—玉野の造船（2018年度 人文科学部 表現文化学科 2年生）

玉野市立図書館は、瀬戸内市民図書館に先駆けて市民参加により設立された公共図書館である。<sup>(注14)</sup>

2015年11月4日、玉野市は、2015年7月から9月にかけて実施された「新☆図書館&公民館を創るワークショップ」を経て、決定した新図書館と中央公民館のレイアウトを発表しました。指定管理業者から提案のあったレイアウトを基に、3回にわたるワークショップによって改善が加えられたもので、それぞれの成果（図面）などが公開されています。「図書館の中に公民館の機能が点在」する設計となったとされています。

図書館・中央公民館の移転・整備に関する情報  
(玉野市, 2015/11/4)

当該学生は、岡山県立玉野高等学校の生徒として、このワークショップに参加したという。今年度、稿者が来館し入手した「玉野市図書館利用案内」（2020年9月2版）は、「玉野市立中央公民館 利用案内」と一体のものとして説明されている。いずれも「天満屋ハピータウン・メルカ2階」という商業施設内にある。公民館の利用案内には、「学習や文化活動などを行う芸術・文化の拠点として」の活用が提唱されている。図書館の利用案内には、「たまののミュージアム」に、「玉野市出身の著名人の紹介やその作品などを展示しています」として、「玉野市立図書館・中央公民館ホームページ」QRコードが示されている。「フロアマップ」には、「郷土資料」が示され、簡易の展示ケースと展示解説の配布資料が置かれている。カウンターでは、B5カラー4ページ「玉野市立図書館・中央公民館 イベント案内」、月毎のB4カラー両面の「新刊案内」が配布されている。「新刊案内」には、「郷土資料・参考図書」の

分類が示されている。地域性のある企画としては、玉野市出身の漫画家・いしいひさいちの作品パネル展である「たまののちゃん展」があるが、図書館の地域資料に関連するイベントは多くはない印象である。学生のレポートにも、玉野市の造船に関する地域資料は、タイトルからは検索し得なかったという主旨が説明されている。現在、「三井E&S造船」玉野事業所 (<https://www.mes.co.jp/shipbuilding/>) があることから、三井造船株式会社編『三井造船株式会社50年史』(1968年)を検索で見出したが、情報が古く、現代の玉野の産業としての造船という、当初本人が想定した調査テーマからは、やや遠ざかる印象のレポート内容となった。

### 3-3 岡山市立中央図書館一坪田譲治 (2022年度 人文科学部 表現文化学科 2年生)

岡山市立中央図書館には、児童文学者・坪田譲治による「童心浄土」という碑文の文学碑がある。2階にも関連資料を展示するスペースが設けられ、「岡山市立中央図書館 坪田譲治の世界 企画展示『明治から昭和 岡山の子ども～坪田譲治作品を描く～』」(2022.4.27～6.12)のような企画展が定期的実施されている。学生が岡山市立図書館のOPACで坪田譲治関連資料を検索したときに、以下の検索結果が示され、「倉敷ゲロモ会」がいかなる会であるかインターネット上の調査では明らかにならなかった。

書名：坪田譲治年譜 著者：出版者：倉敷ゲロモ会  
出版年：1985 分類：099.1ゲ 形態：図書一般

学生が来館し、同館レファレンスカウンターで「倉敷ゲロモ会」について問い合わせところ、以下の「山陽新聞」のスクラップ記事の提供を受けることができた。

ゲロモ会 倉敷市水島公民館講座「お母さんの読書教室」を母体に、五十七年十月結成された子供の本を楽しむ会。毎月一回、同公民館で例会を開き、読んだ本の紹介などしあうほか、坪田譲治や新美南吉（略）といったテーマを決め、一、二年かけて冊子にまとめている。会員は三十～五十代の七人で、ほとんどが主婦。ちなみに「ゲロモ」とは、東北・宮城県地方の方言でオタマジャクシの意。

（「仲間と語ろう」―「山陽新聞」1988.11.22）

件の「坪田譲治 年譜」は、複数の筆跡による手書き資料で、上記の勉強会による「冊子」の一つと推察される。同冊子の「坪田家の系図作製にあたって」には以下のような説明が加えられている。

坪田理基男先生（譲治氏三男）の『坪田譲治作品の背景』（略）をよんでおりますうちに、（略）「系図」に作中の人物をあてはめてはというヒントを与えられました。かいておりますうちに、一度、理基男先生に目を通していただければと大変あつかましいことを思いながらお手紙をさし上げました。理基男先生は心よくつたない私の文面をみて下さり、お返事と共に「系図」の訂正をして下さいました。

すなわち、作中人物と「坪田家」の関係性について、譲治の三男自身が訂正を加えたという経緯があり、坪田譲治研究において興味深い資料であることが推察されるのである。

このレファレンス対応を可能にしたのは、同館が、坪田譲治に関連する地域の「勉強会」の手製冊子を廃棄することなく三〇年以上にわたって収蔵し、地方紙記事を丹念に収蔵・スクラップし、キーワードをデータベース化して蓄積・継承し、活用していることによるだろう。こうした、長期にわたる地域資料の手厚い集積、検索性を考慮した準備こそが、

専門職としての司書の地域資料に関連する知見・技量の最も問われる領域であり、地域資料とそれを所蔵する公共図書館の意義に最も深く関わる部分であろう。

「地域資料」「郷土資料」で地域の人物・産業等を調査するレポート課題において、学生は各館の地域性・顕彰活動によらず、「桃」「竹久夢二」などの「わかりやすい」テーマから調査し、「郷土資料」に配架されているものの地域性に乏しい一般書の域を出ない資料しか見出せない結果に終始してしまうことも多い。各自治体が限られた予算内で「地域資料」による蔵書を形成する場合、利用者の要請がそれを手厚くするだろう。里庄町立図書館による佐藤清明顕彰、岡山市立中央図書館による坪田譲治顕彰などの事例は、司書の専門性ととも、利用者の地域理解・公共図書館の所蔵する地域資料への期待・協力が、顕彰・社会教育活動の充実・継続に不可欠であることを示している。

#### 4. 地域資料のデジタル化と公開

以上の調査からもわかるように、地域資料は一般の図書資料に比べて資料の形態がきわめて多様であるという特性がある。たとえば岡山市立図書館のホームページには「郷土資料寄贈のお願い」と題するページ<sup>(注15)</sup>があり、収集する郷土資料の範囲を次のように定義している。

収集の対象

(1) 岡山市に関する資料

岡山市の現在・過去の事物をテーマにした資料

(2) 岡山市内で出版された資料

(3) 岡山市出身者・在住者・在職者等によって（ついで）書かれた資料

・個人やグループが作成した自費出版物、同人誌等も含まれます。

- ・岡山市内の企業の社史・社内報・研究報告書や、学校園等に関する資料も含まれます。
- ・図書や雑誌だけでなく、パンフレット、視聴覚資料（CD・DVD等）も含まれます。
- ・岡山県・岡山県内の他市町村等に関する資料も、冊子体の資料を中心に収集しています。
- ・岡山市との関係や、内容が岡山市に関わっているかによって、一般資料として活用させていただく場合もあります。

書籍の形態を持つものだけでなく、社内報やパンフレット等も対象となっており、背表紙のないような簡易的な冊子や、場合によっては1枚ものの資料もあり得ると考えられる。また地域を撮影した過去の、あるいは現在の写真なども地域資料となり得るものである。こうした多様な形態、特にしっかりした冊子体でないような資料は装備の面でも工夫を要するだけでなく、現物を閲覧・複写・貸出等に供することで汚損・摩耗・破損・逸失等の危険性が高く、管理に困難が伴うものである。さらに出版された書籍と違って地域資料は、いったん失われると代替の効かないような希少性を持つものが多いという側面もある。破損しやすい資料や写真などは特に、デジタル化することによって原資料を破損等から守り、デジタルアーカイブとして公開することで資料へのアクセシビリティを高めることが検討されるべきである。

さらに視聴覚資料としての地域資料についても、デジタル技術の普及とともに収集・提供しうる資料となってきた。たとえば岡山県立図書館の「デジタル岡山大百科『郷土情報ネットワーク』」<sup>(注16)</sup>には、地域の昔話の語り手による音声、県内の学校の校歌の音源、地域や史跡等の解説動画、といったデジタル媒体ならではの地域資料がアーカイブ化されており、情報通信技術の発展普及によって地域資料の範囲も拡大していることがわかる。「郷土情報ネットワーク」では、他にも館蔵の和装本

や絵図・古地図等の画像デジタルアーカイブも整備しており、視聴覚資料を含む地域資料の収集・提供の先進的事例として、しばしば参照されている。

では、岡山県内の各市町村立図書館では地域資料に関してどのようなデジタルアーカイブを整備・公開しているだろうか。各市町村立図書館の公式ホームページでの地域資料に関する情報提供も含めて、人口順<sup>(注17)</sup>にまとめたものが次の表である。公式ホームページに地域資料の収集や提供に関する記載を特に行っていない館は空欄とした。各館とも館内において地域資料の収集・提供は行っており、公共図書館としての責務は果たしているわけだが、下表は公式ホームページを通してインターネット上に地域資料や地域資料のリストが公開されているかどうかを調査したものである（地域資料に関するイベントのお知らせや、新着図書を地域資料に絞り込んで表示できる機能といった一時的な情報は対象外としている）。該当資料が市町村のホームページ中に存在する場合もあるが、ここでは館の公式ホームページ下に掲載されているものだけを調査対象としている。なおこの調査は2022年9月に行っている。

施設名	地域資料そのもの (デジタルアーカイブ等) のインターネット公開	地域資料に関する情報の インターネット公開
岡山市立図書館	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 明治、大正期の引札、地域の偉人に関する写真等の資料、戦前戦後の岡山市の地図等、館蔵の画像資料を「岡山シティミュージアム デジタルアーカイブ」で公開</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 郷土地図、郷土雑誌、郷土新聞の目録、郷土カルタの目録</li> </ul>
倉敷市立図書館	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 備中松山藩に仕えた漢学者川田甕江の資料集全頁</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 旧中庄図書館蔵の地域資料の目録</li> </ul>



施設名	地域資料そのもの (デジタルアーカイブ等) のインターネット公開	地域資料に関する情報の インターネット公開
津山市立図書館	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地域に関連した写真、画像、動画等を「flickr」で公開</li> <li>・ 地域出身の作家の絵本の読み聞かせ動画</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「津山市の統計情報の調べ方」のパスファインダー</li> <li>・ 国立国会図書館の「レファレンス協同データベース」に掲載されている同館の地域に関するレファレンス事例へのリンクを提供</li> </ul>
総社市図書館		
玉野市立図書館	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 玉野市立中央公民館との共同事業「玉野市デジタルアーカイブ」を整備し、市内の風景、建物、行事等の明治・大正・昭和期の写真や絵図・古地図等、あわせて4,700件あまりを公開</li> </ul>	
笠岡市立図書館		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「おすすめの本」のコーナーに「郷土資料(笠岡)」「郷土資料(岡山・福山)」の資料一覧</li> </ul>
赤磐市立図書館		
真庭市立図書館	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ Youtubeチャンネル「まにわとしょかんチャンネル」で地域に関する話題を発信</li> <li>・ 地域の史跡や行事、自然等を題材にした「真庭ふるさとカルタ」のデータを公開</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「図書館おすすめ」のコーナーに真庭市の歴史、文学、芸術、地理、産業等のブックリスト</li> </ul>
井原市立図書館		

施設名	地域資料そのもの (デジタルアーカイブ等) のインターネット公開	地域資料に関する情報の インターネット公開
瀬戸内市立図書館		<ul style="list-style-type: none"> <li>・「おすすめ」のページに「ハンセン病」「備前長船と刀」「竹久夢二」等の地域に関するテーマによるブックリスト</li> </ul>
浅口市立図書館		
備前市立図書館		
高梁市立図書館		
新見市立図書館		
美作市立図書館		
矢掛町立図書館		
和気町立図書館		
美咲町立図書館		
早島町立図書館		<ul style="list-style-type: none"> <li>・館内のパソコンでCD-ROMにデジタル化した地域資料を閲覧できる旨の案内（CD-ROM化されているのは、明治・大正・昭和の引き札、絵図、地元旧家に残る古文書、町広報誌のバックナンバー等）</li> </ul>
鏡野町立図書館		
里庄町立図書館		<ul style="list-style-type: none"> <li>・「図書館おすすめの本」の「映画・ドラマ原作本」分野に「岡山ロケ地」小分野を設定</li> <li>・同じく「妖怪大集合」分野に「岡山の妖怪」小分野を設定</li> </ul>
勝央図書館		<ul style="list-style-type: none"> <li>・「おすすめ資料」に「出雲街道」カテゴリを設定</li> </ul>

施設名	地域資料そのもの (デジタルアーカイブ等) のインターネット公開	地域資料に関する情報の インターネット公開
吉備中央町図書館		
奈義町立図書館	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「【写真が語る奈義町のあゆみ】 デジタル写真アーカイブ」を「デジタル岡山大百科」で公開（奈義町制施行60周年・図書館開館20周年記念事業）</li> <li>・同町に残る巨人「さんぶたろう」の伝説に関する同館発行の資料全文</li> </ul>	
久米南町図書館		<ul style="list-style-type: none"> <li>・「テーマ別資料検索」のページに「片山潜」「法然」など地域ゆかりの人物に関する資料のリスト</li> </ul>
あわくら図書館 (西粟倉村)		
新庄図書館 (新庄村)		

全27市町村において、地域資料のデジタルアーカイブをインターネット公開しているのは岡山市、倉敷市、津山市、玉野市、真庭市、奈義町の6市町に留まることがわかる。デジタルアーカイブ公開の取り組み例はまだ豊富とは言えない状況と言わざるを得ない。人口の多い市が取り組み例を持つ傾向は当然と言えるが、なかでも「玉野市デジタルアーカイブ」の充実ぶりは特に目を引かれる。また津山市立図書館では、デジタルアーカイブの公開だけでなくパスファインダーやレファレンス事例を公開するなど地域調査の便宜を特に図ろうとする姿勢が感じられる。同館は岡山市と同様に地域資料の「寄贈のお願い」をHPに掲載しており、ここでも地域資料収集への積極的な姿勢が示されている<sup>(注18)</sup>。また、真庭市立図書館のYoutubeチャンネルでは、地域の移り変わり、歴史や地

理を中心とした話題の座談「まにわ図書館ラジオ2022 7 3」のように地域資料を図書館自らが創出しようとする特色ある取り組みも行われている。町村立図書館においては、奈義町立図書館の「デジタル写真アーカイブ」や「さんぶたろう」伝説にまつわる資料の公開が目される。

インターネット公開はされていないが、早島町立図書館のCD-ROMのように、傷みややすく閲覧しにくい地域資料をデジタルアーカイブ化してパソコンで閲覧できるようにしている工夫は、先進的なものと言うべきだろう。

このように概観してみると、岡山県内各市町村の公共図書館における地域資料のデジタルアーカイブ化に、いくつかの特徴が見えてくる。内容面で言えば、一つは写真等資料の収集である。近代以降、特に昭和以降においては地域の施設・企業・個人が所蔵する写真は数多く、その中には地域資料として貴重なものも含まれる。写真は世代交代等のタイミングで失われやすく収集が急がれる地域資料であり、こうした取り組みは意義深いものと言うべきだろう。もう一つは、既存の資料を収集するだけではなく館が地域資料を主体的に創造する取り組みが散見される、ということである。真庭市立図書館の「まにわ図書館ラジオ」や津山市立図書館の読み聞かせ動画、奈義町立図書館の「さんぶたろう伝説」の資料などがその例である。郷土カルタの作成といった取り組みも複数の館で行われている。

技術面でいえば、デジタルアーカイブの公開手段に関して、必ずしも市町村や館のサーバから発信されているわけではないということを指摘すべきだろう。flickrやYoutube、県立図書館の「デジタル岡山大百科」や国立国会図書館の「レファレンス協同データベース」など、外部のサービスの1コーナーとして自館の情報の公開を行っている例が複数見られるということである。これは予算の限られる市町村立図書館にあって人的な負担も経済的なコストも軽減できる優れた工夫と言える。

## 5. 今後の課題

2022年5月、国立国会図書館で「個人向けデジタル化資料送信サービス」が開始された。絶版等の理由で入手が困難な資料約150万点あまりを国会図書館から個人の利用者に対してインターネット送信するサービスである。150万点といえば岡山県立図書館の蔵書数に匹敵するほどの数であり、この資料数はさらに増加していく見通しである。今後、図書資料のかなりの部分についてインターネット送信で閲覧することが一般化していく可能性がある。こうした時代にあって、各地域の公共図書館の役割における地域資料収集・提供の重要性はますます増大していくものと考えられる。

2章に述べた文学研究のみならず、地域資料は各種の研究資料としても唯一性を持つ貴重な存在であるものが少なくない。岡山県下の公共図書館においてはいずれも「郷土資料コーナー」などを設置して、地域資料の収集・提供に取り組んでいるが、各館がどのような資料観をもってどのような資料を収集しているのかということを広く告知することは各種研究の進展のためにも必要である。しかし地域資料そのものや、地域資料のテーマ別リスト等のデジタル化とインターネット公開は、必ずしも十分に行われているとは言い難い状況である。

2017年度「公立図書館における地域資料サービスに関する報告書」<sup>(注19)</sup>によれば、「公共図書館が地域資料のデジタル化を実施していない理由」として「実的なノウハウがない」「予算が不足している」「職員が不足している」と回答した館が多いということである。また、これまでにデジタル化を実施したことがある館の多くが「デジタル化の課題」として予算の問題を挙げているという。

岡山県内市町村立図書館の取り組み例を見ると、記念事業や他施設との共同事業として予算を確保したケースがあると同時に、4章で指摘したようにflickrやYoutubeといった経費のかからない既存プラットフォームを利用したケースも見られる。こうした工夫はこれからデジタ

ル化をしようとする館の参考になるノウハウといえる。

また、上述した写真資料だけでなく、古老の語りや伝統行事の映像など、デジタル化した時代だからこそ容易に記録できるようになった新しい地域資料もある。これらは収集が遅ればそれだけ失われて行くリスクも高まっていく資料である。こうした資料の収集と保存も新たな課題となるだろう。図書館単独ではなく地域の博物館等との連携事業として予算を確保するという方向も検討の必要がある。その意味でMLA連携は地域資料の収集・提供に特に重要な意味を持つものと言えるだろう。

地域資料の収集と提供に関する活動は、それぞれの館の特色となるものであり、利用者の情報要求に館がどう応えるのかという館の見識と独自性が一般図書の選書以上に問われる部分でもある。その活動を担う司書の専門性が特に必要な分野と言えるだろう。そういう意味では、指定管理者制度による時限的な管理委託については、地域資料収集・提供方針の策定や中長期的な活動の継続という部分で懸念があり得るということとは最後に特に付言しておきたい。

## 出典

- 吉良 (2009) 吉良洋一. 公立図書館の「郷土資料」について－思うこと・思い出すこと－. JUNTO CLUB (西日本図書館学会大分県支部), 2009-03, 9, 1-6.
- 竹田 (2015) 竹田芳則. 地域資料サービス. カレントアウェアネス, 2015-03, 323, 22-26.
- 川瀬・北 (2018) 川瀬綾子・北克一. 「ツタヤ図書館」の資料区分を検証する (その5): 高梁市立図書館の検索・予約システムを中心に. 情報学 (大阪市立大学創造都市研究科情報学専攻) 15 (1), 29-43, 2018.

---

## 注

- <sup>1</sup> 日本図書館協会図書館ハンドブック編集委員会編. 図書館ハンドブック 第6版補訂2版. 日本図書館協会. 2016-09, 241-242.
- <sup>2</sup> 三多摩郷土資料研究会編. 地域資料入門. 日本図書館協会. 1999-04, 18, (図書館員選書14).
- <sup>3</sup> 加藤美奈子. 倉敷市所蔵「薄田泣菫関連資料」調査報告. 吉備地方文化研究 (21), 207-231, 2011.
- <sup>4</sup> 加藤美奈子. 与謝野寛 (鉄幹)・晶子「北備溪谷の秋」の旅で詠まれた歌:旅詠、揮毫、歌碑、「郷土資料」をめぐって. 吉備地方文化研究 (26), 1-40, 2016.
- <sup>5</sup> 加藤美奈子. 与謝野寛 (鉄幹)・晶子の岡山訪問 (昭和八年六・七月): 「冬柏」(昭和八年七月)掲載「海より溪へ」「消息」による旅詠と旅程. 吉備地方文化研究 (27), 1-22, 2017.
- <sup>6</sup> 由比浜省吾. 「里庄 (町)». JapanKnowledge (日本大百科全書). <https://japanknowledge.com/lib/display/?lid=1001000100956>, (参照 2022-09-30).
- <sup>7</sup> 里庄町. 「里庄町」. 里庄町. <http://www.town.satosho.okayama.jp/>, (参照 2022-09-30) .
- <sup>8</sup> 里庄町立図書館. 「佐藤清明顕彰特設サイト」. 里庄町立図書館. [https://www.sl.net.town.satosho.okayama.jp/seimei\\_result.html](https://www.sl.net.town.satosho.okayama.jp/seimei_result.html), (参照 2022-09-30) .
- <sup>9</sup> 高梁市. 「高梁市図書館」. 高梁市. <https://www.city.takahashi.lg.jp/site/explore-takahashi/library-jpn.html>, (参照2022-09-30) .
- <sup>10</sup> 高梁市立図書館. 「ご利用ガイド」. 高梁市立図書館. <https://takahashi.city-library.jp/library/ja/guide>, (参照 2022-09-30) .
- <sup>11</sup> 由比浜省吾. 「有漢」. JapanKnowledge (日本大百科全書).

<https://japanknowledge.com/lib/display/?lid=1001000030388>, ( 参 照 2022-09-30) .

<sup>12</sup> 文部科学省. 「別表 (司書講習科目のねらいと内容)」。文部科学省. [https://www.mext.go.jp/content/20211122-mxt\\_chisui02-1422544\\_4.pdf](https://www.mext.go.jp/content/20211122-mxt_chisui02-1422544_4.pdf), (参照 2022-09-30) .

<sup>13</sup> 加藤美奈子. 「図書館基礎特論 シラバス」。就実大学・就実短期大学. <https://www1.shujitsu.ac.jp/public/web/Syllabus>, (参照 2022-09-30) .

<sup>14</sup> 国立国会図書館. 「玉野市 (岡山県)、2017年4月に開館予定の新図書館と中央公民館に関するワークショップを基に施設レイアウトを決定し、公開」。カレントアウェアネス・ポータル.

<https://current.ndl.go.jp/node/30216>, (参照 2022-09-30) .

<sup>15</sup> 岡山市立中央図書館. 「郷土資料のページ」。岡山市. <https://www.city.okayama.jp/kurashi/0000010796.html>, (参照 2022-08-24) .

<sup>16</sup> 岡山県立図書館. 「郷土情報ネットワーク」。デジタル岡山大百科. <http://digioka.libnet.pref.okayama.jp/>, (参照 2022-08-24) .

<sup>17</sup> 岡山県県民生活部市町村課. 「市区町村住民基本台帳人口」。岡山県. <https://www.pref.okayama.jp/page/detail-58070.html>, (参照2022-09-24) .

<sup>18</sup> 津山市立図書館. 「郷土・行政資料」。津山市立図書館. <https://tsuyamalib.tvt.ne.jp/other/kyoudo.html>, (参照2022-09-24) .

<sup>19</sup> 全国公共図書館協議会. 2017年度 (平成29年度) 公立図書館における地域資料サービスに関する報告書. 全国公共図書館協議会. 2018-03.